「釧路湿原自然再生協議会」

第14回　再生普及小委員会
第17回　再生普及行動計画ワーキンググループ

平成21年12月17日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

第14回　再生普及小委員会
第17回　再生普及行動計画ワーキンググループ

日時：平成２１年１２月１７日（木）13:30～16:00

場所：釧路地方合同庁舎　5 階　共用第１会議室

---------- 議 事 次 第 ----------

１，開会

２，議題

　１）再生普及小委員会の経過報告

　２）再生普及行動計画ワーキンググループ経過報告

　３）環境教育ワーキンググループ経過報告

　４）第２期釧路湿原自然再生普及行動計画（案）の検討

　５）今後の予定

　６）その他

３，閉会

---------- 配 布 資 料 ----------

- 議事次第
- 第１４回再生普及小委員会
  第１７回再生普及行動計画ワーキンググループ　出席者名簿
- 再生普及小委員会　委員名簿
- 再生普及行動計画ワーキンググループ　名簿
- 第１４回再生普及小委員会
  第１７回再生普及行動計画ワーキンググループ　資料
- 意見・要望アンケート用紙

釧路湿原自然再生協議会
第１４回　再生普及小委員会
第１７回　再生普及行動計画ワーキンググループ

計：18名

☆；再生普及小委員会　出席者
★；再生普及行動計画ワーキンググループ　出席者

出席者名簿

■個人(5名)　（敬称略、五十音順）

No	出席		氏　名	所　　属
1	☆		木　村　　勲	
2	☆	★	清　水　信　彦	
3	☆		白　谷　和　明	平和システム研究所　調査研究員
4	☆	★	新　庄　久　志	釧路国際ウエットランドセンター主任技術員（環境ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ）
5	☆		高　橋　忠　一	

■団体(9名)　（敬称略、五十音順）

No	出席		団体/機関名	出席者名
1	☆		釧路国際ウエットランドセンター	菊地　義勝
2	☆	★	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	尾村　和男
3	☆		釧路湿原国立公園連絡協議会	事務局次長　菊地　義勝
4	☆	★	こどもエコクラブくしろ	サポーター　近藤　一燈美
5	☆		財団法人日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	伊藤　加奈
6	☆	★	財団法人北海道環境財団	企画事業課長　久保田　学
7	☆		特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長　百瀬　邦和
8	☆	★	特定非営利活動法人くしろ・わっと	成ヶ澤　茂
9	☆		北海道標茶高等学校	酒井　一明

■オブザーバー(0団体)　（敬称略）

No	出席		団体/機関名	出席者名

■関係行政機関(4機関)　（敬称略）

No	出席		団体/機関名	出席者名
1	☆	★	環境省 釧路自然環境事務所	所長　出江　俊夫
2	☆	★	北海道 釧路支庁	地域振興部環境生活課 自然環境主任　石井　弘之
3	☆	★	釧路市	環境政策課 自然保護担当　菊地　義勝
4	☆	★	釧路町	生活環境課長　山崎　淳

再生普及行動計画ワーキンググループ名簿

＜個　人＞

金子　正美　　（酪農学園大学環境システム学部地域環境学科教授）
清水　信彦
新庄　久志　　（釧路国際ｳｪｯﾄﾗﾝﾄﾞｾﾝﾀｰ主任技術員・環境ファシリテーター）

＜団　体＞

NPO 法人釧路湿原やちの会
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会
釧路市民活動センターわっと
釧路シャケの会
釧路武佐の森の会
こどもエコクラブくしろ
ボランティアネットワーク・チャレンジ隊

＜関係市町村＞

釧路市　　釧路町　　標茶町　　弟子屈町　　鶴居村

＜関係行政機関＞

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部
林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
北海道釧路支庁
北海道教育庁釧路教育局

＜ワーキンググループ事務局＞

環境省北海道地方環境事務所　釧路自然環境事務所
財団法人北海道環境財団

「釧路湿原自然再生協議会」

第14回　再生普及小委員会
第17回　再生普及行動計画ワーキンググループ

資　料

平成 21 年 12 月17 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

目　　次

１，再生普及小委員会の経過報告

資料１　再生普及小委員会の経過報告　・・・・・・・　1

２，再生普及行動計画ワーキンググループ経過報告

資料 2-1　「ワンダグリンダ・プロジェクト 2009」中間報告（概要）　・・・・・・・　2

資料 2-2　「ワンダグリンダ・プロジェクト 2009」進捗状況（一覧）　・・・・・・・　3

資料 2-3　知名度調査アンケート結果　・・・・・・・　5

資料 2-4　フィールドワークショップの報告　・・・・・・・　10

３，環境教育ワーキンググループ経過報告

資料３　今年度の活動について　・・・・・・・　11

４，第２期釧路湿原自然再生普及行動計画(案)の検討

資料 4-1　第１期行動計画(2005～2009 年度)の評価(案)　・・・・・・・　12

資料 4-2　第１期行動計画(2005～2009 年度)章別評価(案)　・・・・・・・　16

資料 4-3　第２期行動計画(案)へ寄せられた意見の概要とその対応(案)　・・・・・・・　26

資料 4-4　第２期釧路湿原自然再生普及行動計画(案)　・・・・・・・　28

５，今後の予定

資料 5-1　今後の予定(案)　・・・・・・・　39

資料 5-2　「ワンダグリンダ・プロジェクト 2010」募集概要(案)　・・・・・・・　40

資料１

再生普及小委員会の経過報告

★は環境教育 WG 関係

6 月	4 日	第 13 回再生普及小委員会　開催
	6～7 日	エコ･フェアくしろ 2009（主催：実行委員会）参加
	23 日	★第 5 回環境教育 WG　開催
7 月	9 日	★環境教育 WG 主催　教員研修の実施
	12 日	第 3 回フィールドワークショップ 「湿原の水みちを見る～川の再生・湖の浄化」開催
8 月	21～24 日	パネル展「空から見た釧路湿原」（紀伊國屋書店札幌本店）開催
9 月	3 日	釧路道路事務所管内請負工事安全協議会にて講話
	6～7 日	知名度アンケート実施（JR 釧路駅、ジャスコ釧路店、温根内 VC）
10 月	17 日	第 4 回フィールドワークショップ 「湿原と人の暮らしの境界 2～宮島さんの住んだ宮島岬～」開催
	19 日	第 16 回再生普及行動計画 WG 開催　第 2 期普及行動計画（案）の作成
11 月	7～8 日	まなトピア（主催：釧路市生涯学習センター）参加
	12 日	青葉小学校にて講話（4 年生対象）
12 月	17 日 （本日）	第 14 回再生普及小委員会、第 17 回再生普及行動計画 WG　開催

資料 2-1

「ワンダグリンダ・プロジェクト 2009」中間報告（概要）

1　取組み者数について

（1）　総数：47 団体（個人）、82 取組み（協議会含）

（2）　新たな取組み：４団体／5 取組み

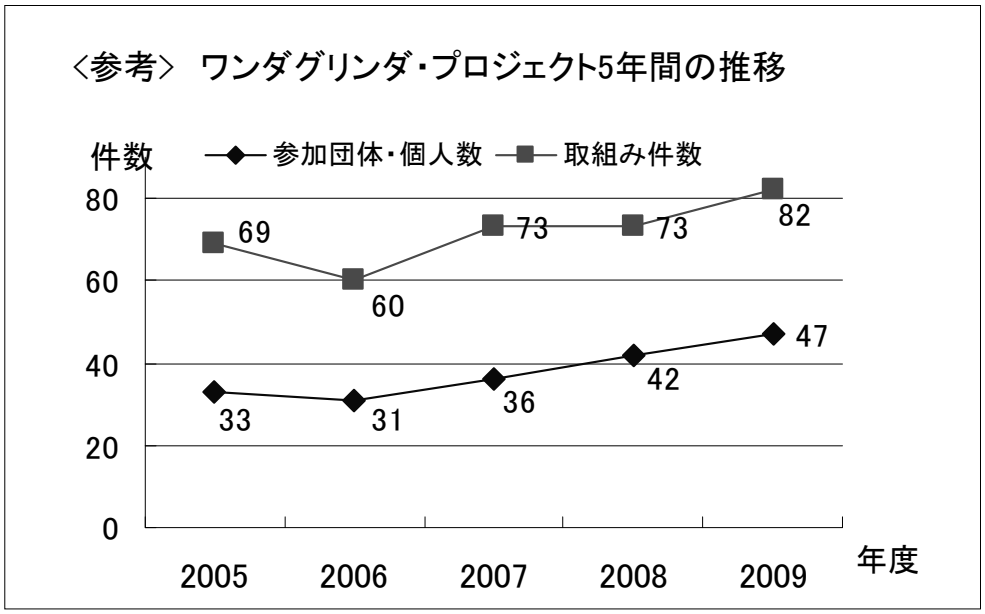
- 環境省釧路自然環境事務所　／　釧路湿原自然教室の開催
- 釧路子ども魚博士講座実行委員会　／　釧路子ども魚博士講座の開催
- 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会　／　クリーンウォークの実施
  ウチダザリガニ駆除調査
- 沢田建設株式会社　／　ウチダザリガニ防除の実施

2　ワンダグリンダ・プロジェクト 2009 進捗状況について（平成 21 年 11 月 30 日現在）

- 取組みが既に終了した　　：23 件
- これから予定している　　：4 件
- 実施の予定がたっていない：7 件
- 活動中　　：48 件

3　「ワンダグリンダ・プロジェクト 2009」報告について

実施者への報告依頼は、昨年度と同様の報告フォーマットを使用し、2010 年 2 月～4 月にかけて行う予定です。



ワンダグリンダ・プロジェクト2009　進捗状況（一覧）

資料2-2

※ 2009年度からの新規参加は、団体・個人名の欄に「★」で表しています。

団体名	取組み概要	No	取組み時期	実施状況
伊勢志郎	来訪者の釧路湿原国立公園来園記念に、折鶴を関連施設に提供します	1	随時	活動中
岩間喜美子（自然ガイド）	釧路湿原の中をガイドいたします	2		未定
ウッディホテルレストラン夢工房	イベント等を企画したくさんの方々と交流を深め、それを通して自然への関心を高めます	3	未定	未定
(株)FMくしろ	釧路湿原の植物や生物、歴史について紹介する「ゆうゆう釧路湿原塾」を放送します	4	毎週月曜PM1：40～	活動中
NPO法人釧路湿原やちの会	釧路湿原道路の清掃活動を実施します	5	4月26日（日）	終了
	温根内ビジターセンター駐車場の清掃活動を行います	6	5月～10月	終了
	修学旅行・一般観光客（団体・個人）・企業の研修旅行等を受入れます	7	随時	活動中
★ NPO法人タンチョウ保護研究グループ	タンチョウの保護・研究に関するHPでの情報発信、教育普及活動、タンチョウ総数カウント調査を行います	8	講演会：年2回、総数カウント調査：1月、HP更新：随時	活動中
NPO法人トラストサルン釧路	トラスト地においけるボランティア作業の受入れを行います	9	随時	活動中
NPO法人北海道フィッシャーズ協会	ゴミ清掃を中心とした環境保全活動	10	5月、10月、個々に随時	終了
★ Rainbou Angel（ペンネーム）	釧路湿原の魅力を「色」をテーマにブログ発信します	11	不定期（月1回以上）	活動中
お菓子司　二幸	「湿原まんじゅう」を販売します	12	通年	活動中
小川幸子	湿原をイメージした紙粘土人形の作成	13	随時	活動中
賀勢朗子	北海道の動物折り紙の展示	14	随時	活動中
川口　秀人	湿原の動植物や風景の写真をカレンダーにして職場に展示します	15	通年	活動中
環境コンサルタント株式会社	達古武湖面をカヌーで清掃します	16	7月ごろ	終了
	湿原流域で体験型環境学習会を開催します	17	8～10月	未定
環境省釧路自然環境事務所	自然再生事業を行っている達古武地区にて、市民体験調査会を行います	18	夏～冬に1～2回	終了
喜多島麻鈴	コンサートを通じて湿原に興味をもってもらえるようPRします	19	年1～2回	未定
釧路国際ウェットランドセンター	ホームページ・ニュースレター等により釧路湿原の情報を発信します（日本語・英語）	20	HP更新：年4回／ニュースレター発行3月	活動中
	技術委員会による研究活動（ミンク分布状況に関する調査）を実施します	21	技術委員会開催2～3回（2009年4月～2010年3月の期間中）／アンケート、実地調査　5～8月の期間中／報告書の作成・発行　2010年3月	活動中
	湿地保全やワイズユースに関する研修を実施します	22	国際協力機構（JICA）湿地保全研修：5-6月／エコツアー研修：8-9月　等	活動中
	湿原観察会（エコツアー）を実施します	23	年1回（1月下旬）	予定
釧路湿原国立公園連絡協議会	「釧路湿原こどもレンジャー」事業を実施します	24		活動中
	湿原に関する情報を毎月紙面で発行します	25	通年	活動中
	温根内ビジターセンターと塘路エコミュージアムセンターで行われるプログラムの情報共有と施設間の連携を図ります	26	通年	活動中
	ホームページによる釧路湿原の情報を発信します	27	随時	活動中
釧路湿原全国車いすマラソン大会実行委員会	第23回釧路湿原全国車いすマラソン大会を実施します	28	8月30日	終了
釧路湿原MTBクラブ	釧路湿原周辺の丘陵地を主なフィールドとして廃道や林道でのツーリングを行います	29	ガイドツアー：7,8,9,10,1月（月1回公募で有料）／クラブツーリング：毎月2回程度・湿原1周100km（年1回）	活動中
釧路湿原マラソン実行委員会	第36回釧路湿原マラソン大会の開催	30	7月26日	終了
釧路シャケの会	シャケの稚魚の里親募集と放流式の実施。	31	里親募集1月中旬～、放流式5月5日	予定
★ 釧路短期大学	湿原をとりまく地域食材を使用した、学生考案の「咲くさクッキー」を釧路全日空ホテルと連携して販売し、湿原自然再生に還元します（諸活動と収益の一部寄附）	32	6月20日より全日空ホテルから販売開始	活動中
★ 釧路プリンスホテル	宮島岬を中心に、自然ガイドとともに周辺の自然や歴史を体験・学習するツアーを実施します	33	通年	活動中
釧路ボタニカルアートの会	地元の植物やその周辺の環境を観察し学び、希少な植物の姿を細密画として描き、作品を環境保護活動に役立てます	34	随時	活動中
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	「くしろ環境スクール」終了生による「釧路自然再生解説員」活動と学習会を行います	35	解説員の活動：4～9月　学習会：年2回	活動中
	「釧路湿原川レンジャー」を募集し活動を行います	36	観察活動：通年　学習会：年4回程度	活動中
(財)釧路市民文化振興財団	「湿原 ほたる講座」を開催します	37	7月24日	終了
	いきいき女性講「キラコタン岬から釧路湿原を眺めてみよう」を開催します	38	7月17日	終了
	いきがい新発見講座「ノロッコ号に乗って湿原学習」を開催します	39	6月18日	終了
	まなぼっと子ども体験隊「キラコタン岬に行こう（湿原に接し、湿原の成り立ちなどを学ぶ）」を開催します	40	10月3日	終了
	釧路学教養講座「釧路地方の自然と歴史③「キラコタン岬」」を開催します	41	8月29日	終了

（財）日本野鳥の会鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	施設来訪者へのタンチョウの解説・ミニスライドショーを実施します	42	１０～３月	活動中
	タンチョウティーチャーズガイド講習会を実施します	43	年2回	活動中
	自然保護を目的とする学生組織「F・Aネットワーク」のワークキャンプを受入れます	44	年2回（夏・春）	活動中
奈良県　笹本由文	私有山林に自然林育成と環境保全を努めます。（湧水付近での魚類調査など）	45	夏期～秋期	終了
さとぽん（ハンドルネーム）	ホームページによる釧路湿原の魅力や歩き方に関する情報発信	46	適宜更新	活動中
沢田建設株式会社	釧路湿原近郊でゴミ拾いを行います	47	夏と秋	終了
★ 市立釧路図書館	資料展示 「豊かな大自然ー釧路湿原の魅力」 開催	48	4月～6月25日	終了
	釧路市の観光案内資料コーナー　設置	49	通年	活動中
シルバーシティときわ台ヒルズ	自然再生について学ぶ「自然再生」文化講座の開催	50	4月、11月、(H22)1月、2月、3月	予定
	海外の老人ホームとの相互交流を通して、自然・動植物の生態を学び国際親善に寄与する	51	未定	未定
太平洋総合コンサルタント株式会社	体験型の環境教育の実施	52	6月～7月	終了
★ タクプパ（ペンネーム）	道東の自然や地名をアイヌ語で紹介します	53	『ワンダグリンダ☆ニュース』のコラムの中で	活動中
（株）日専連釧路	「日専連釧路フィッシャーマンズカード」を発行し、利用額の一部を釧路湿原国立公園連絡協議会に寄付します	54	通年	活動中
日本ボーイスカウト北海道釧路第6カブ隊	スカウト達とザリガニ駆除や湿原のすばらしさをアピールします	55	四季を通じて活動	活動中
★ 北海道阿寒高等学校	1学年「地域巡検」として釧路湿原を学びます	56	8月～10月の間で1回	終了
ボランティアネットワークチャレンジ隊	「じゅう箱のスミ」を媒体に、湿原再生の取組みやそこに関わる人々の姿をわかりやすく楽しく市民に発信します	57	年数回	未定
	釧路湿原“音”探検を開催します	58	年1回	未定
★ 宮永真智子	オカリナ演奏で協力します	59	随時	活動中
無国籍雑貨　島屋	釧路湿原に生息する希少な生物をモチーフに、アイヌ模様の伝統的パターンを使いデザインしたエコバックを製作・販売します。（売上げの一部は自然再生活動へ寄付します）	60	随時	活動中
★ 山中慎一郎	釧路湿原周辺の森林を散策し、様々なテーマに対応した毎月のイベントを開催します	61	毎月第4土曜日（年12回）、要望があれば随時	終了
リンク・リング	野生生物へのエサやりの是非の説明を通して、人と動物・自然のかかわりについて考える機会をもってもらいます	62	随時（1月中旬予定ときわ台ヒルズにて講演予定）	予定
林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター	「雷別ドングリ倶楽部」で森林再生の各種事業に市民参加を呼びかけます	63	雷別自然再生学習会：6、10月／苗木育成（タネ採り6,9月、タネ蒔き6,10月／移植6月）／「どんぐり教室」開催（炭焼き12月、冬芽観察2月）／「お庭で苗木育成制度」への通年参加	活動中
	自然再生事業地で「雷別自然再生学習会」の実施	64	6月、10月	終了
	「お庭で苗木育成制度」の実施	65	1コンテナ（24本入り）を9月ごろから自宅で育成	活動中
環境省釧路自然環境事務所	釧路湿原自然教室「キタサンショウウオはただ今、越冬準備中！」の開催	66	10月12日	終了
★ 釧路子ども魚博士講座実行委員会	釧路子ども魚博士講座の開催	67	10月18日～11月22日までの間5回	終了
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	クリーンウォークの実施	68	年9回	活動中
	ウチダザリガニ駆除調査	69	年5回	終了
沢田建設株式会社	ウチダザリガニ防除の実施	70	年1回	終了

46団体・個人／70取組み
（2008年度は39団体/58取組み）

釧路湿原自然再生協議会	意見交換会等を実施します	1	随時	活動中
	各種イベント時において自然再生を紹介します	2	随時	活動中
	各種情報誌での掲載を行います	3	随時	活動中
	釧路湿原ガイドブックの販売を進めます	4	随時	活動中
	自然再生協議会ホームページにて、協議会関連情報を発信します	5	随時	活動中
	自然再生に関わる印刷物の作成・発行をし、配布します	6	随時	活動中
	自然再生に関わる講演会等を実施します	7	随時	活動中
	自然再生に関わる視察・研修等の受け入れ・協力を行います	8	随時	活動中
	自然再生に関わるパネル展など企画・実施します	9	随時	活動中
	地元新聞社への情報掲載依頼等を行います	10	随時	活動中
	ホームページ「普及行動計画ワーキンググループ通信」にて、湿原に関する話題等を提供します	11	随時	活動中
	自然再生協議会への協賛や寄付金を募ります	12	随時	活動中

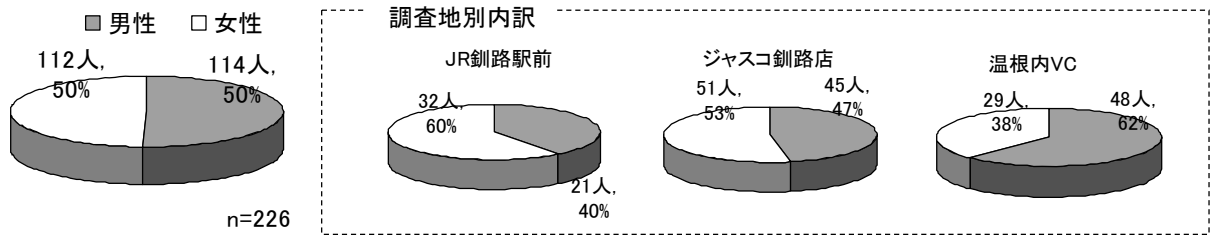
資料 2-3

知名度調査アンケート結果

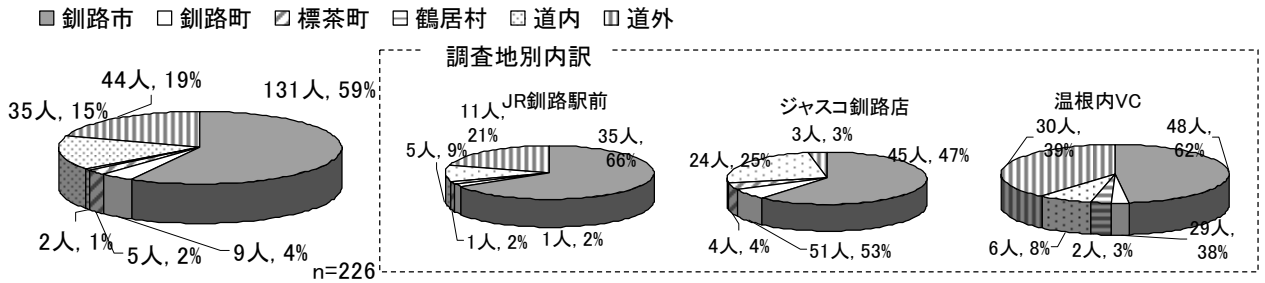
実施日と調査場所	9 月 6 日（日）10：00～12：30　温根内ビジターセンター（玄関前） 13：00～15：00　ジャスコ釧路店 9 月 7 日（月）　10：30～12：00　JR 釧路駅前
調査件数	JR 釧路駅前 53 件、ジャスコ釧路店 96 件、温根内 VC 77 件　　計 226 件
実施対象	10～70 代の男女
調査員	3～5 名　（WG メンバーからのお手伝い 2 名）

アンケート対象者について

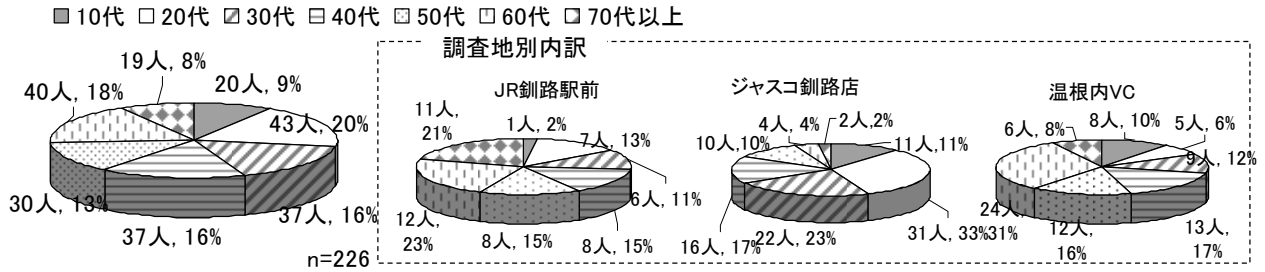
■　性　別



■　地　域

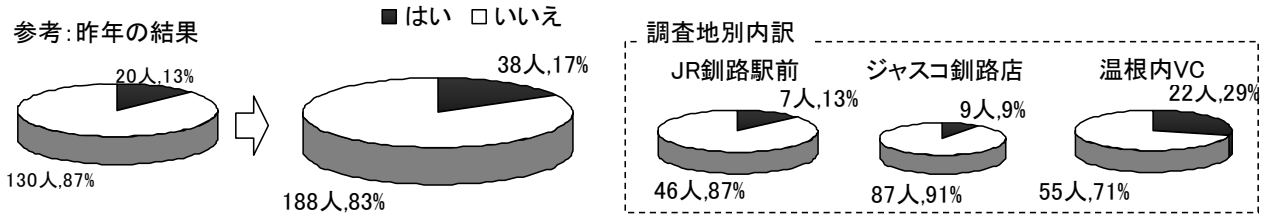


■　年　齢

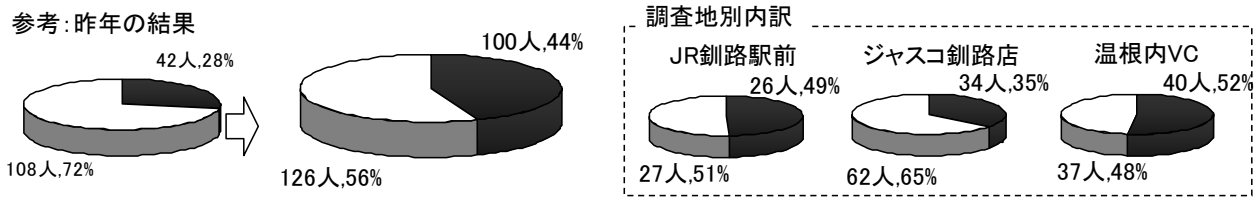


集計結果（全体）

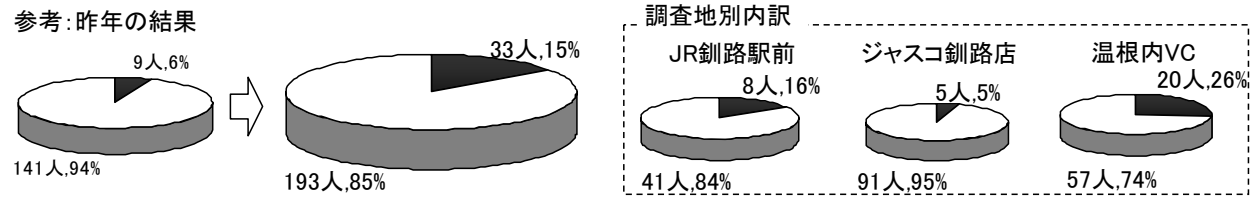
1　釧路湿原自然再生協議会を知っていますか



2　釧路湿原自然再生事業を聞いたことがありますか

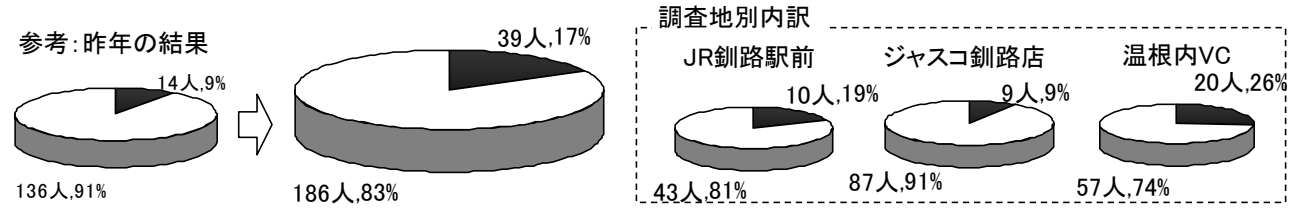


3　釧路湿原自然再生全体構想を聞いたことがありますか



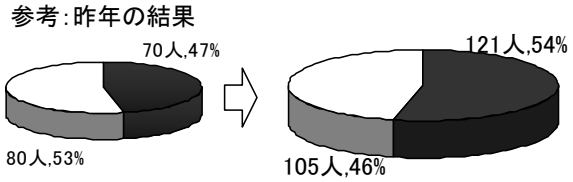
合計「はい」のうち、
・内容について大まかでも知っている：25 人

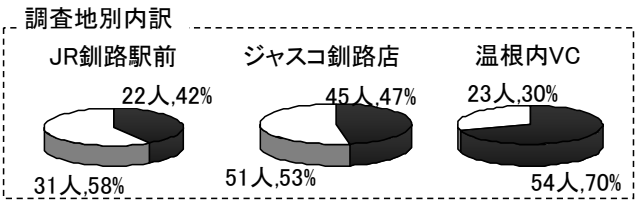
4　ワンダグリンダ・プロジェクトを聞いたことがありますか



合計「はい」のうち、
・内容について大まかでも知っている：18 人
・どんな内容のイベントならば参加したいか：日程次第(2 人)、ウォーキング、家族で参加できるもの、冬ならではの企画、ゴミ拾い、外来種駆除、湿原深部（普段見られない所）、現場まで連れて行ってくれる

5　釧路湿原に最近出かけていますか？その頻度は？

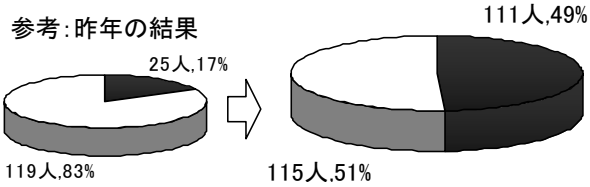


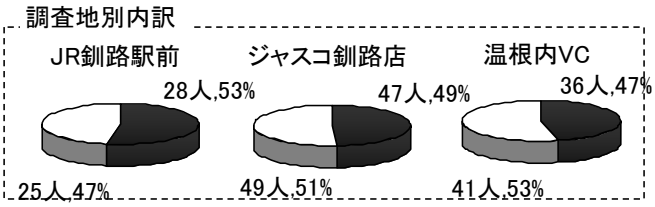


毎月 1 回以上	25 人	3 人	5 人	17 人
2～3 ヶ月に 1 回	20 人	2 人	5 人	13 人
年に 1～2 回	44 人	9 人	24 人	11 人
数年に 1 回	32 人	8 人	11 人	13 人

出かけない理由（かっこ内は回答者数）：忙しい(17)、遠方・地元ではないため(7)、魅力を感じない(6)、関心ない(6)、どこで何をしていいか判らない(5)、近すぎる(4)、出かける機会がない(3)、行く交通手段がない(3)、一度見れば満足(1)、おっくう(1)、高齢のため出かけられない(1)

6　釧路湿原や身の回りの自然環境を保全するために何か行っていますか？





「はい」の内容（かっこ内は返答者数、複数回答）： ゴミを捨てない(58)、家庭排水に配慮(17)、ゴミ減量(12)、ゴミ分別(9)、イベントに参加(8)、洗剤を控える(5)、ゴミ拾い(5)、畑作で CO2 削減(2)、除草剤を使わない(2)、自然にむやみに立ち入らない(2)、車をあまり使わない(1)、会社で植樹活動(1)、マイ箸持参(1)、エアコンの温度設定を控えめにする(1)、コンセントをこまめに抜く(1)、物を捨てない(1)、リングプル回収(1)

〈参考〉普段の暮らしの中で、環境保全を意識しておこなっていることを教えてください（複数回答）

	全体	JR釧路駅前	ジャスコ釧路店	温根内VC
節電	50%	47%	52%	51%
節水	44%	42%	47%	42%
エコバック持参	69%	60%	78%	65%
資源回収	56%	51%	65%	48%
積極的なリサイクル/リユース	29%	25%	36%	22%
ごみ拾い	17%	15%	20%	16%

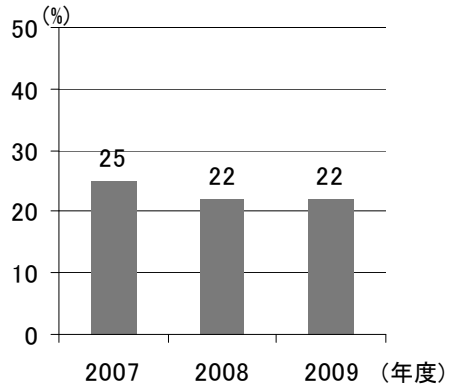
その他：自然にやさしいものを買う、ゴミの減量、町内会清掃活動、携帯灰皿、アイドリングストップ、エコドライブ、会社のＣＳＲ活動（ゴミ拾い）、海岸掃除、雨水利用、炭づくり、レジ袋をもらわない、コンポスト利用、洗剤を控える

知名度調査アンケート結果の推移

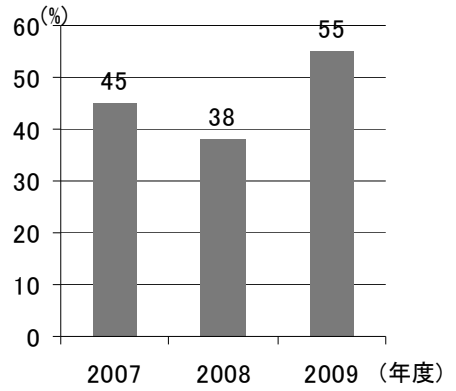
（2007 年度～2009 年度：釧路市、釧路町、標茶町、弟子屈町、鶴居村）

（調査件数　2007 年度 96 件、2008 年度 89 件、2009 年度 147 件）

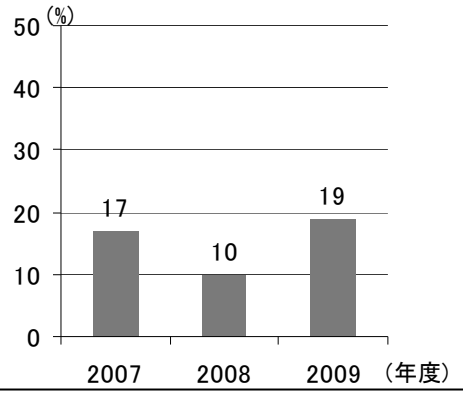
１　釧路湿原自然再生協議会を知っていますか



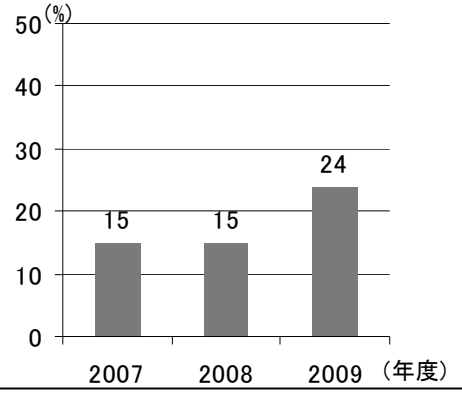
２　釧路湿原自然再生事業を聞いたことがありますか



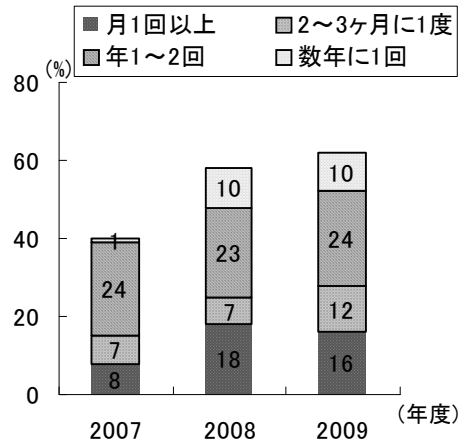
３　釧路湿原自然再生全体構想を聞いたことがありますか



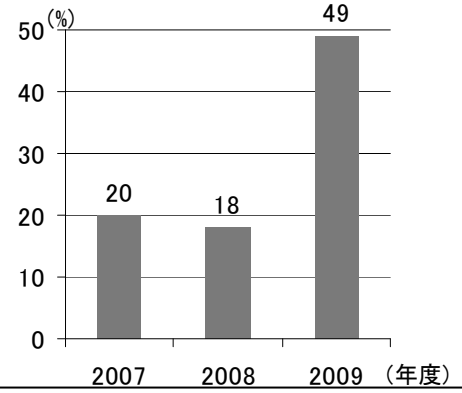
４　ワンダグリンダ・プロジェクトを聞いたことがありますか



５　釧路湿原に最近出かけていますか？



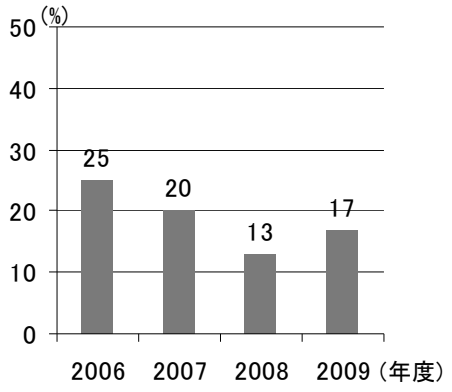
６　釧路湿原や身の回りの自然環境を保全するために何か行っていますか？



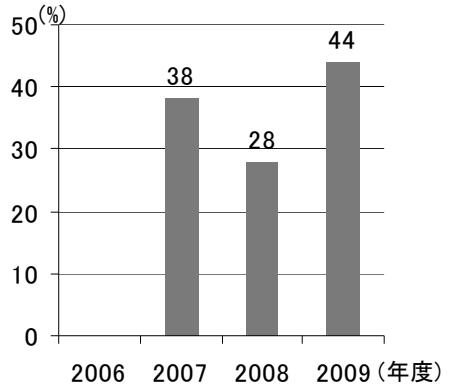
知名度調査アンケート結果の推移（2006 年度～2009 年度：全体）

（調査件数　2006 年度 130 件、2007 年度 142 件、2008 年度 150 件、2009 年度 226 件）

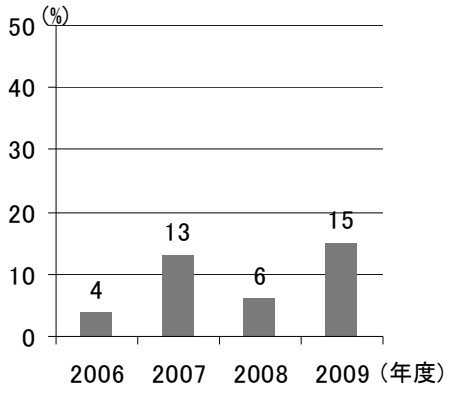
１　釧路湿原自然再生協議会を知っていますか



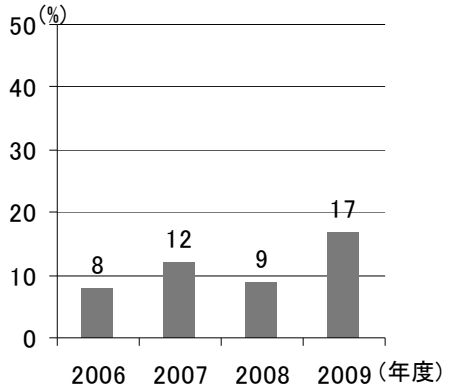
２　釧路湿原自然再生事業を聞いたことがありますか



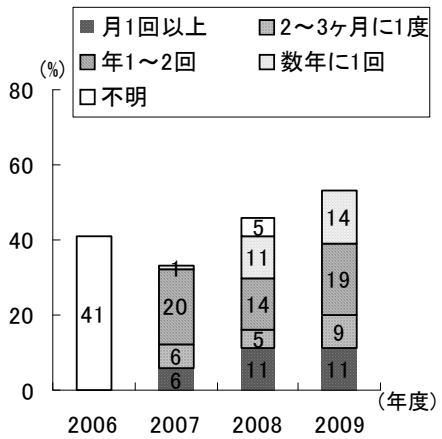
３　釧路湿原自然再生全体構想を聞いたことがありますか



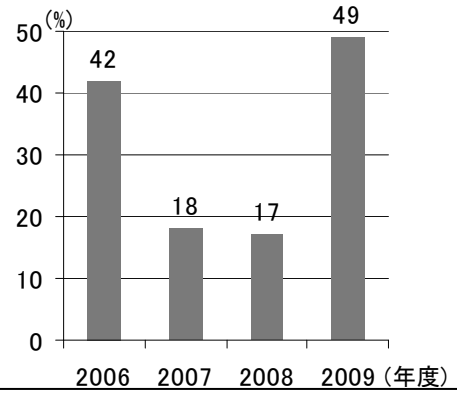
４　ワンダグリンダ・プロジェクトを聞いたことがありますか



５　釧路湿原に最近出かけていますか？



６　釧路湿原や身の回りの自然環境を保全するために何か行っていますか？



資料 2-4

フィールドワークショップの報告

●第 3 回フィールドワークショップ「湿原の水みちを見る～川の再生・湖の浄化」

・実施日時：2009 年 7 月 12 日（日）9 時～13 時

・実施場所：茅沼地区旧川復元事業地、達古武湖

・参加者数：ワンダグリンダ応募者 10 名、普及小委員会・WG メンバー2 名

・実施内容：自然再生事業実施現場の見学（茅沼地区旧川復元事業地）
座学（達古武地区自然再生事業、達古武湖について）及びディスカッション
達古武湖でのヒシ刈取り体験（カヌーにのってハサミで刈り取り）
お楽しみ企画としてウチダザリガニ、ヒシの実入りイモダンゴ、ダッチオーブンによるパンの試食を実施

・講　　師：新庄久志氏（釧路湿原自然再生協議会会長、本 WG 座長）

・協　　力：釧路開発建設部、民芸店「サルンパ」、ベーカリーカフェじみへん。

・アンケート回答より（抜粋）：釧路川再生が身近に感じました。身近に感じることで人ごとではなくなり、協力してくれる人も増えると思います。大変でしょうがたくさんの人に見せる体験をしてもらうということが大事だと思いました／湿原再生事業の現場を確認できた。最新の情報を伺ったことが今後の活動に役立てそうです。／ヒシの取組みのような楽しみながらできることは、一般の人が参加しやすく、このような取組みの情報は役立てたいと思います

●第 4 回フィールドワークショップ「湿原と人の暮らしの境界 2～宮島さんの住んでいた宮島岬」

・実施日時：2009 年 10 月 17 日（土）8 時～14 時

・実施場所：宮島岬

・参加者数：ワンダグリンダ応募者 10 名、普及小委員会・WG メンバー2 名

・実施内容：宮島さん宅の住居跡見学
岬へ向う途中で、山のこと、湧水のこと、昔の林業の話などを伺う

・講　　師：新庄久志氏（釧路湿原自然再生協議会会長、本 WG 座長）

・アンケート回答より（抜粋）：テーマ通り「湿原と人の暮らしの境」を観察でき、別の意味での釧路湿原を見ることができました／湿原から周辺の山林に至る水環境を植生の関わりなどをご説明いただき、大変参考になりました／紅葉の林を歩け（ミニ湿原を横に見ながら）巨木にやどるスゲの葉の共生を見られたのがスゴかったです。先端からのながめは他では見られない広大さを間近に感じられ、蛇行している川を見られ満足でした。

資料３

環境教育ワーキンググループの今年度の活動について

１　教員研修の実施

釧路教育研究センターと連携し、釧路湿原に対する新たな視点・気づきを教員と共有し、湿原の教育的な価値を捉えなおすことを目的とする教員研修を実施。

・実施日時：2009 年 7 月 9 日（木）10 時集合　16 時解散
・参加教員：釧路圏の小学校、中学校教員 23 名（内初任者７名）
・実施内容：自然再生事業実施現場の見学（幌呂地区湿原再生事業地）
　　温根内自然探勝歩道でのフィールドプログラム体験
　　座学（釧路湿原の変遷、価値）及びディスカッション
・講　　師：新庄　久志氏（釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員）
　　若山　公一　氏（温根内ビジターセンター　指導員）
　　大森　享 氏（北海道教育大学釧路校　准教授）
・アンケート回収結果：16 名の参加教員が提出（回収率 70%）
　　「湿原を題材とした教育カリキュラムの実施意向」への項目では、
　　ぜひ実施してみたい（30%）、検討していきたい（36%）と回答。
　　情報提供希望の記載があった７名の教員にワンダグリンダニュースを発信。

２　情報の収集と提供

学校における実践事例及び学校教育を支援する団体等の情報を取材し、とりまとめ後、ホームページ（kushiro-ee.jp）へ随時掲載。

（１）学校における実践事例
　新学習指導要領を視野に入れた学習、地域の団体等と連携した学習、教員間でノウハウを共有し数年間継続して学習を行っている事例等を取材。
【HP 掲載済み】鶴居村立鶴居小学校
【取材中】鶴居村立下幌呂小学校、釧路市立青葉小学校、北海道立阿寒高等学校

（２）団体・企業等における実践事例
　団体・企業等が学校と連携して行った実践事例を取材。
【HP 掲載済み】釧路湿原展望台、てしかがエコまち推進協議会、沢田建設株式会社、観光ボランティアの会、
【取材中】タンチョウコミュニティ

資料４－１

第１期行動計画（2005～2009 年度）の評価（案）

＊第 16 回再生普及行動計画 WG での検討結果、変更箇所は赤字で表示しています＊

１　経緯

○　釧路湿原自然再生協議会では、「釧路湿原自然再生全体構想」（2005 年３月）に沿って、釧路湿原の自然再生にかかる環境教育や市民参加を一層推進するために、2005 年６月に「釧路湿原自然再生普及行動計画」（以下、「行動計画」）を策定した。

○　行動計画は、多岐にわたる課題に対し、「できる者」が「できること」から着手することを旨とし、事務局が毎年度の具体的な取組を「ワンダグリンダ・プロジェクト」の名称で募集してとりまとめ、情報発信してきた。

○　行動計画は概ね５年間を対象としており、５年目にあたる今年度は、これまでの評価を行い、次の５年間に向けた方向性を明らかにするために、以下の手順で所要の検討を行った。

４月２４日　　第１５回行動計画ワーキンググループ（改訂についての意見交換）
～７月　　小委員会メンバーへのアンケート、各小委員長ヒアリング実施
～９月　　小委員長、座長との方針調整、事務局による素案作成作業
１０月１９日　　第１６回行動計画ワーキンググループ（改訂行動計画素案の検討）
１０月２６日～１１月１５日　　協議会構成員等への意見照会
１２月１７日　　第１４回再生普及小委員会
　　第１７回行動計画ワーキンググループ（改訂行動計画案の検討）

○今後の予定
（未定）　　第１５回釧路湿原自然再生協議会（改訂行動計画の承認）

２　実施状況と４年間の総括

（１）　実施状況

○　2008 年度までの４年間に、のべ１４２団体・個人による２７５件がワンダグリンダ・プロジェクトに参加した。各年度の参加数合計は、表１のとおり。

表１　ワンダグリンダ・プロジェクト参加状況

	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	〈参考〉 2009 年度応募数(11/30 現在)
参加団体数	３３	３１	３６	４２	４７
参加件数	６９	６０	７３	７３	８２

（２）　成果

①　行動計画の実施により、釧路湿原をとりまく多種多様な活動やそれらの担い手の存在が情報として集約され、見えるようになった。こうした活動の集積は、一つのフィールドとしては質・量ともに国内屈指のレベルに達していると思われる。

②　折り紙やコンサートによる協力などに見るように、自然再生や環境保全の枠にとどまらず、幅広い切り口で人々と湿原との接点ができてきており、特に、これまで湿原に直接関わっていなかった分野の活動や人の参画を得ることができた。参加者間の交流や事務局のコーディネート等も有効で、新たな活動や参加の機会を創出することができた。

③　以前と比較して、湿原や自然に関心を持つ人は確実に増えてきていることが参加者の実感から伺える。参加者は、湿原を楽しみながら体験的に理解していく活動の有効性や、こうした活動をさらに広げていく可能性について、手応えを感じている。

④　常設事務局を置くことで、情報収集、提供、相談、コーディネート等を安定して行うとともに、それらの情報や経験を蓄積させることができ、部分的ではあるが「人、施設、地域のネットワーク」の拠点機能を担うことができた。

（３）　課題

①　湿原に関する「関心」、「気づき」、「学び」をもたらす活動はある程度定着しているが、自然再生への「参加」、「行動」を引き出すにはなかなか至らず、そうした機会の提供を拡充する必要がある。

②　自然再生そのものの動きや情報が地域で十分に共有されているわけではなく、「関心」、「気づき」の機会についてもさらに拡充する必要がある。

③　自然再生事業に対する地域の理解は未だ十分ではなく、これを深める役割を強化する必要がある。

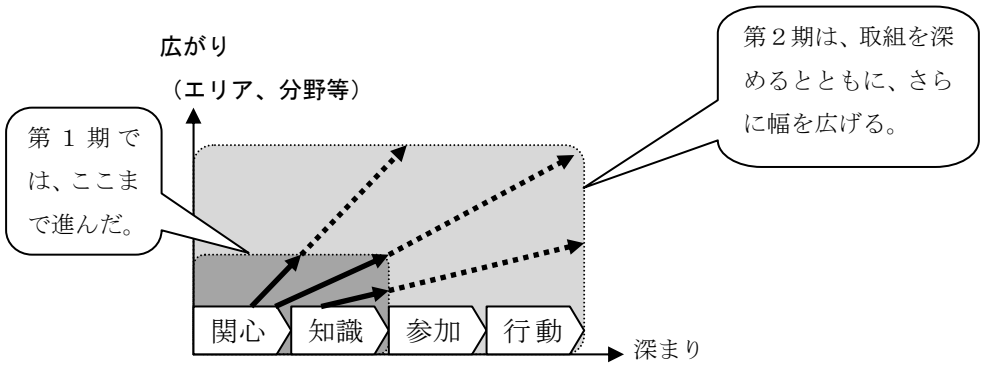
３　総括と今後の方向性

第１期計画では、湿原への関心を広げること、知ってもらうこと、関わる人を増やすこと等を中心に取り組んできた。その結果、人々と湿原の接点は広がり、また、取り組む人や主体の範囲も目に見えて広がった。

次は、この資産を活用して、もっと関心を持つ人を増やす（裾野を広げる）こと、関心、知識から、参加、行動につなげる（次のステップに深める）ことが目標となる。（図１参照）

加えて、農業や観光等、地域の産業の参画を得ていくことが必要であり、湿原と流域の人々とのつながりをつくり、湿原（自然）と一緒に暮らしていく生活文化の醸成を目指していくことを長期的な目標としていきたい。

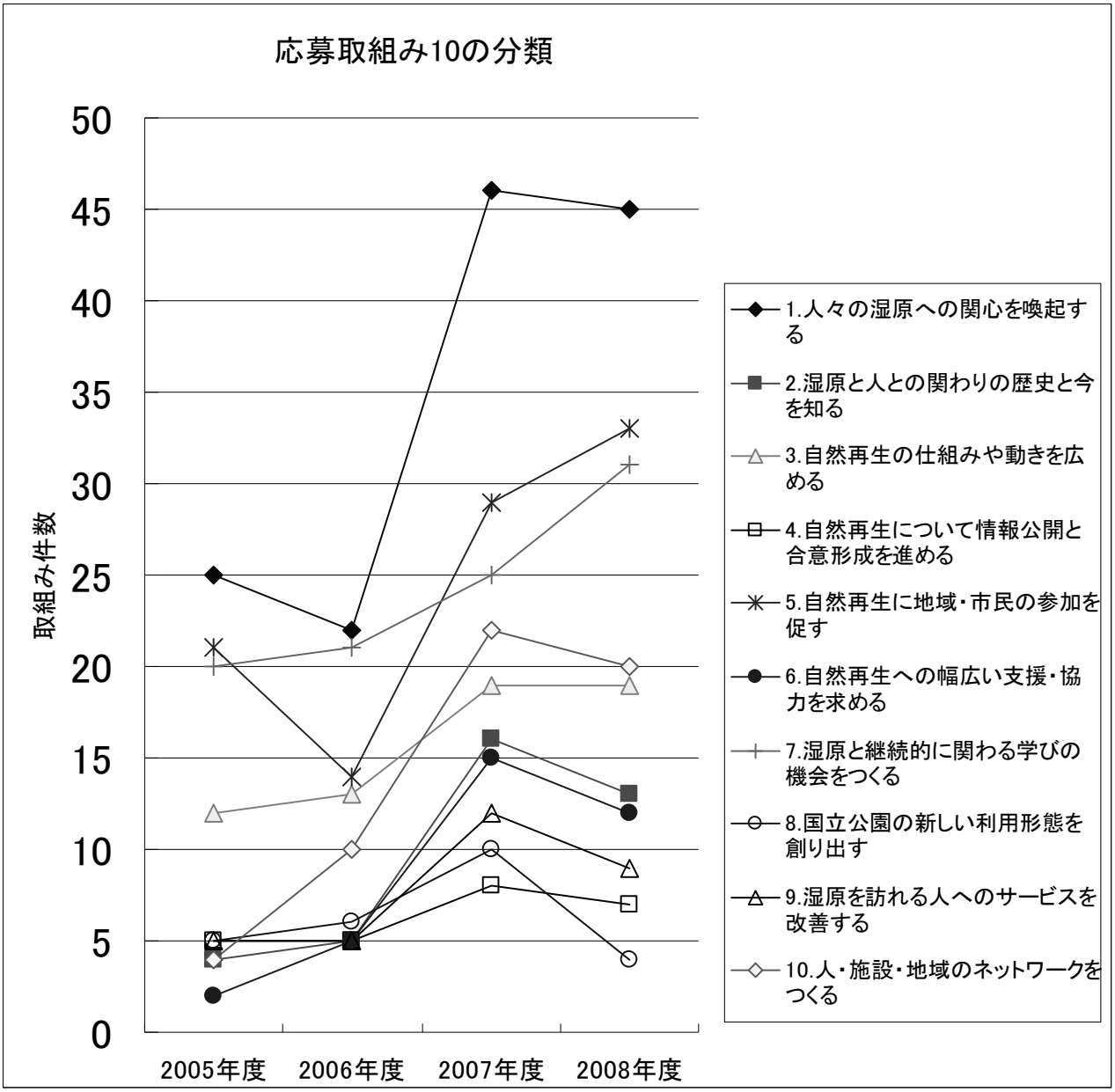
図１　次期計画が目指すもの

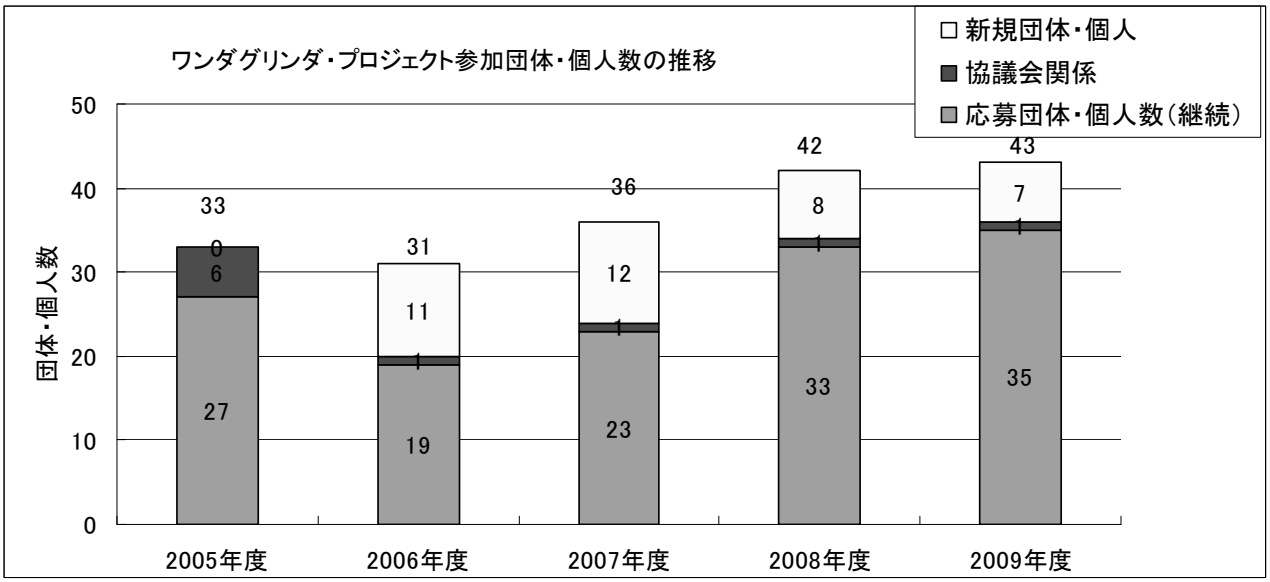


これらを実現するための仕組み（ツール）として、協議会としての行動計画に、協議会と内外の人・主体をつなぎ、広く誰でも参加できる開かれたプログラムである「ワンダグリンダ・プロジェクト」を実施する。

行動計画は、自然再生の直接の実施や合意形成の場ではないが、実施者ではなくても、そうした多様な立場の人々が当事者としていろいろな形で関わり、自然再生に貢献する機会を提供することを基本とする。

これらにより、地域の参加を特色とする「釧路方式」を特徴づけていく。


応募取組み10の分類
取組み件数
50
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0
2005年度
2006年度
2007年度
2008年度
1.人々の湿原への関心を喚起する
2.湿原と人との関わりの歴史と今を知る
3.自然再生の仕組みや動きを広める
4.自然再生について情報公開と合意形成を進める
5.自然再生に地域・市民の参加を促す
6.自然再生への幅広い支援・協力を求める
7.湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる
8.国立公園の新しい利用形態を創り出す
9.湿原を訪れる人へのサービスを改善する
10.人・施設・地域のネットワークをつくる


ワンダグリンダ・プロジェクト参加団体・個人数の推移
新規団体・個人
協議会関係
応募団体・個人数（継続）
団体・個人数
50
40
30
20
10
0
33
0
6
27
31
11
1
19
36
12
1
23
42
8
1
33
43
7
1
35
2005年度
2006年度
2007年度
2008年度
2009年度

資料４－２

第１期行動計画（2005～2009 年度）章別評価（案）

（※　以下全て、2008 年度までの４年間の情報に基づき整理した。各章の件数は重複を含む。）

＊第 16 回再生普及行動計画 WG での検討結果、変更が生じたところを見え消しに、追加箇所は赤字で表示しています＊

１．　人々の湿原への関心を喚起する

○　たくさんの人々が湿原に目を向けるよう、関係機関が連携して今よりも効果的に情報を発信し、人々が日常生活や仕事の中で湿原を身近に感じ、関心を持つきっかけを増やしていくことが必要です。

○　さまざまな分野や立場に対して、それぞれ効果的な方法で生活や産業と湿原とのつながりを伝えていくことが必要です。

■　計画期間に行う取組の実施状況

○　４６主体、のべ１３８件の取組が実施された。

○　人々が湿原と接するきっかけを提供する取組が期間中に多数実施された。取組み数、実施団体数とも、他項目に比べて抜きん出て多く、非常に活発に取組まれている。

○　フィールドでの直接の機会提供のみならず、市中でのセミナー、展示、イベント、地域ＦＭ等のメディアをとおした発信、道外を含むインターネットによる情報発信などの参加があった。

○　コンサートによるメッセージ発信、「湿原まんじゅう」の販売、折り紙や紙粘土などアートによる表現等、「環境保全活動」の枠にとどまらないユニークな活動が展開された。

■　評　価

○　人々が湿原に接する「入口」としての機会を着実に増やすことができたと考えられる。

○　多様な取組の参加が得られたことで、湿原に関わる活動の幅を広げ、環境教育・活動実施団体にとどまらないユニークなネットワークを形成することができた。

○　今後、こうした機会、ネットワークを地域、市民にさらに広げていくとともに、そこから湿原の保全、再生への参加、行動につなげていくことが期待される。

２．　湿原と人との関わりの歴史と今を知る

○　釧路湿原には開発と保全の長い歴史があります。湿原や周辺部が開発されてきた経緯を知り、私たちが得たもの、失ったものを伝えていくことが必要です。

○　人々の暮らしと湿原や野生生物との関わりを地域が理解し、来訪者にも伝えるための機会を作りだしていくことが必要です。

■　計画期間に行う取組の実施状況

○　１７主体、のべ３７件の取組が実施された。

○　野生生物（タンチョウ、ザリガニ、キツネ）との関わりを伝えるセミナーやツアーなどが多く、地域ＦＭ放送や修学旅行等でのガイド活動等、さまざまな機会、手法が活用されている。

○　高校での教育活動としての取組、学生向けワークキャンプ、老人保健施設での入居者向け講座等、幅広い年齢層がカバーされている。

○　湿原と人との関わりの歴史を直接テーマとする活動の応募は少なかったが、ワンダグリンダ・プロジェクトの応募外でも、新聞での長期連載企画や博物館、郷土館等における常設展示、叢書の刊行など、さまざまな取組が行われており、相当数の住民、来訪者にメッセージが伝わっているはずである。

■　評　価

○　流域の暮らしとさまざまな接点のある野生生物に関しては、活動団体、施設の存在もあり、比較的充実した活動実績が得られている。

○　開発の歴史等人との関わりについては、直接これをテーマに活動することは簡単ではないことが伺えるが、ワンダグリンダ・プロジェクトの応募外でも、内容、手法とも多様で充実した発信が行われている。今後は、こうした取組の参加を得ていくことや参加団体の取組をとおして重層的に発信していくことが期待される。

○　施設やフィールドにおける来訪者や修学旅行の受入れ等、この地域には湿原と人の関わりを効果的に伝える機会があり、自然再生のＰＲを含め、今後とも活用が期待される。

３．　自然再生の仕組みや動きを広める

○　湿原の保全や自然再生の取組みを、関係機関が連携してより効果的に広報していくことが必要です。特に既存の国立公園利用施設や観光施設などで自然再生についての情報発信を強化していくことが望まれます。

○　マスメディア、インターネット、パンフレットやニュースレター、各種表示など、あらゆる媒体を用いて釧路湿原で行われている取組みの発信が必要です。

■　計画期間に行う取組みの実施状況

○　１０主体、のべ６１件の取組が実施された。

○　自然再生事業の普及については、主として自然再生協議会や事業実施者が中心となって、様々な機会を活用して実施されている。講演会や施設での展示等にとどまらず、フィールドを活用した取組も多い。

○　ＮＰＯによる修学旅行生への発信や、JICA 研修をとおした海外への発信も行われている。

■　評　価

○　自然再生実施者によるＰＲや各種メディアを介した情報発信等が行われてきており、民間活動の中でも紹介されてきている。

○　自然再生事業自体の知名度は未だに低く、報道も一時に比べて減少しており、地域に対して、自然再生事業の実施状況や成果をよりきめ細かく発信していくことが必要である。

○　行動計画（ワンダグリンダ・プロジェクト）により、多様な取組みを集約して発信する仕組みは得られており、今後の拡充が期待される。

４．　自然再生について情報公開と合意形成を進める

○　自然再生についての情報へのアクセスを改善し、情報源の整備や情報共有を進めていくことが必要です。

○　自然再生は、地域や関係主体の相互理解と合意形成のもとに進められる必要があります。このための交流や意見交換を継続的に実施していく体制が求められます。

■　計画期間に行う取組みの実施状況

○　８主体、のべ２４件の取組が実施された。

○　第三者には取り組みにくいテーマであり、当事者である協議会及び実施団体による取組みがほとんどであった。協議会としての意見交換会も期間中に各地で数回実施されている。

○　自然再生事業の現場を活用することでより理解を深めようとする、参加体験型の企画も継続的に実施されている。

○　ワンダグリンダ・プロジェクト応募外の取組を含め、複数の大学から研究対象としてアクセスがあり、研究及び政策提言活動によるワンダグリンダ・プロジェクトへの参加も得られた。

■　評　価

○　自然再生協議会ホームページ等により最低限の情報公開は行われているが、地域に対する実施計画の成果、状況の報告、発信や会議参加の呼びかけ等は不足しており、協議会内部の情報共有についても改善の余地がある。

○　今後は、流域レベルでの関心喚起、~~合意形成、~~支持拡大、合意形成の素地づくりに向けて、より積極的な情報公開、発信が望まれる。

５．　自然再生に地域・市民の参加を促す

○　地域・市民・来訪者に対する自然再生参加の機会を増やすとともに、参加の機会についての広報を強化していくことが必要です。

○　親子や観光施設への来訪者などが気軽に参加できる機会を創出していくことが必要です。

○　住民や観光客だけではなく、事業者や専門家など多様な主体の参加を引き出していくことが必要です。

■　計画期間に行う取組みの実施状況

○　３１主体、のべ９９件の取組が実施された。

○　官民を問わず、~~多種多様な~~さまざまなタイプの活動が展開され、地域、市民の参加の機会を創出してきており、地域活動として定着、認知を得ているものもある。

○　地元企業による湖の浄化やウチダザリガニ駆除、ＮＰＯや個人による森林再生、河川清掃等、直接的な自然再生活動も継続して行われるようになっている。こどもの参加の機会も継続的に設けられている。

○　信販会社によるカード売り上げの一部寄付等、間接的な参加の機会も創り出されている。

■　評　価

○　フィールド作業への参加による直接的な貢献を含め、~~多種多様な~~さまざまなタイプの参加の機会が設けられてきている。特に、地元企業による取組みが少しずつ増えており、動きが着実に拡大しつつある。

○　それらを支える広報活動として、メール、ホームページなどのインターネットを用いた発信ツールも整備されており、今後、~~発信の拡大と~~参加の機会についての情報の発信を拡充し地域~~への~~に浸透させていくことが望まれる。

○　自然再生に継続的に参加、貢献できる機会や来訪者がいつでも参加できる機会~~は限られており~~をさらに広げる必要があり、「気づき」、「学び」から「参加」、「行動」にステップアップする機会の拡充が期待される。

６．　自然再生への幅広い支援・協力を求める

○　企業、メディアを含め、多様な主体に協力を呼びかけ、流域全体で自然再生に協力・支援していくことが必要です。

○　寄付や協賛を広く呼びかけ、自然再生に活かしていくことが求められます。

○　買い物や消費を通じて市民や来訪者が自然再生に間接的に貢献する仕組みづくりが望まれます。

■　計画期間に行う取組みの実施状況

○　１２主体、のべ３５件の取組が実施された。

○　家庭での苗木の育成や、サケ稚魚の里親等、家族で参加できるプログラムや、ＮＰＯの呼びかけによる河川清掃等、河川を利用する事業者向け企画などの事業が実施されている。

○　自然再生協議会以外からもさまざまな形態の協力、支援の取組が行われてきており、植物画や音楽活動など、ユニークな分野からの連携、協力も生まれてきている。

■　評　価

○　「できる者」が「できることから」という行動計画の特色が生かされ、数年前には見られなかった新しいタイプの支援活動を生むことができた。

○　ワンダグリンダ・プロジェクト応募外で協議会への寄付も得られており、協力者のメリットを明確にすること等で、支援の輪を広げていくことが期待される。

○　自然再生をめぐる上流下流間の~~意識差~~関心の相違や地域の産業との連携、支持拡大等の面では課題があり、自然再生の流域全体への貢献について、より明確に打ち出す必要がある。

７．　湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる

○　自然再生を地域の学校教育や社会教育の場で教材として活用していくことが望まれます。

○　フィールドや公園利用施設の湿原学習や自然再生に関するプログラムや教材の充実が必要です。

○　イベント、職場研修、修学旅行等、あらゆる機会を活用して湿原に関する学びの場をつくりだしていくことが必要です。

■　計画期間に行う取組みの実施状況

○　２０主体、のべ９２件の取組が実施された。

○　活発に取り組まれ、特に、フィールドとしての湿原を活かした参加体験型の活動が数多く行われている。個人から企業、行政、大学まで、実施者の幅が広いことも特徴。

○　環境分野以外の団体の参画もあり、多様な機会が提供されているほか、行動計画をとおして新たな連携による活動も生まれている。

○　学校教育の支援に向けて、協議会では「環境教育ワーキンググループ」が設置されて活動し、流域の学校での湿原の活用状況等を明らかにするとともに、小中学校での湿原学習の事例や教材等を整理し、ガイドブックにとりまとめて刊行した。

○　ワンダグリンダ・プロジェクト応募外では、北海道教育大学釧路校が「ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）プランナー」の養成に取り組んでおり、また、釧路商工会議所による「釧路検定」に自然再生が取り入れられており、今後の連携が期待される。

■　評　価

○　社会教育分野を中心に非常に活発に取り組まれている。担い手としては、ＮＰＯや行政が多いが、企業の社会貢献活動としての参加や生涯学習施設による継続的な機会提供、福祉施設での実践、民間による指導者（教員）向けの活動等、幅広い参加が得られており、対象者も多岐に及んでいる。

○　学校教育からの参加は１件にとどまっている。ただし、「環境教育ワーキンググループ」の調査によれば、釧路湿原地域の小中学校の約１／３は、湿原を活用した何らかの教育活動を行っており、年間 80 時間に及ぶ総合的な学習の時間を利用した環境教育を実践する学校も存在するようになってきた。今後は、環境教育ワーキンググループと連携し、そうした学校での活動事例について発信し、授業の支援により普及させていくことが期待される。

○　今後、自然再生自体を環境教育の教材として活用していくことや大学、経済団体等との連携が期待される。

８．　国立公園の新しい利用形態を創り出す

○　湿原の保全や再生に結びつく新しいスタイルの観光や滞在を作りだしていくことが望まれます。

○　保全や再生と両立する適正な湿原利用の文化の創出が望まれます。

○　観光以外にも湿原への負荷を抑えられる滞在スタイルの創出が望まれます。

■　計画期間に行う取組みの実施状況

○　９主体、のべ２３件の取組が実施された。

○　学生主体のワークキャンプや修学旅行の継続的な受け入れなどの実績に加え、マウンテンバイクによるツアーや森林セラピーなど、期間中に新しい活動が生まれている。

○　ワンダグリンダ・プロジェクト応募外ではあるが、海外からのバードウォッチングツアー、一般参加のワークキャンプ、道外からの避暑ツアーなど、新たな来訪形態が出てきている。また、他項目の応募ではあるが、公園利用施設でのコンサートなどの活動も行われている。

■　評　価

○　既存の自然体験、観察にとどまらない過ごし方が提案、実践されてきている。ビジネスとして実施されるものあり、経済活動との両立に向けた試行が行われている。

○　湿原で起きていることを直接伝える場として、今後、観光分野との連携や相互補完が期待される。特に、近年の観光形態の変化（短縮化、個人客増、自由行動等）に対して、新しい過ごし方を提案できる可能性がある。

○　拠点や体制の整備等負担の大きい取組への参加はなかったが、これらについては、推進方策や代替方策を検討していくことが必要である。

９．　湿原を訪れる人へのサービスを改善する

○　湿原訪問・体験や滞在について地域が一体となってサービス向上を図ることが望まれます。

○　「地域をあげて自然を守り、湿原を再生している」という雰囲気作りが重要であり、公園利用施設以外の観光施設や交通拠点等でも情報案内を充実させ、来訪者にメッセージを伝えていくことが望まれます。

■　計画期間に行う取組みの実施状況

○　１２主体、のべ３３件の取組が実施された。

○　期間中に主要観光施設でもある湿原展望台の展示更新が行われ、年間パスポートや格安周遊パスポートなど、利用者向けに新たなサービスが導入された。

○　湿原のガイドマップ、ガイドブックが刊行され、これまでの観光ガイド書にない充実した情報を来訪者が簡単に入手できるようになった。

○　数は少ないが、来訪者向けの情報提供や解説など便宜を向上させる活動や、清掃活動や折り紙の展示など来訪者を迎えるための「おもてなし」的活動が行われてきている。コンサート出演による協力等、ユニークな協力も実践されている。

■　評　価

○　さまざまな活動に関する情報流通体制を構築することで、情報の集約を進めることができた。市町村の協力も得て広報による発信にも着手できた。公園利用施設による季節ごとの情報提供も安定して行われ、マップやガイドブック等と併せて、個人旅行者でも自力でさまざまな情報を得て湿原を楽しむことができるようになってきている。

○　地域や来訪者への情報発信はさらに拡充する必要があり、公園利用施設以外の観光拠点やメディアとも連携し、より広汎な情報提供や湿原体験支援等を行うことが期待される。

１０．　人・施設・地域のネットワークをつくる

○　自然再生への市民参加や環境教育を進めるための人と場を育て、顔の見えるネットワークを作りだしていくこと、そのための拠点機能が必要です。

○　道東一円の湿原や自然保護・再生プロジェクトとの連携が求められます。

○　海外の自然再生プロジェクトとの連携等、国際的なネットワークの中核としての活動が期待されます。

■　計画期間に行う取組みの実施状況

○　２２主体、のべ５５件の取組が実施された。

○　人のつながりを広げる活動が多数実施され、４年間の参加件数の伸びが大きかった。

○　事務局では、まちづくりイベントや商業施設等へも、機会をとらえて釧路湿原の自然再生に関するパネル展示、講演等を行い、自然系活動外へのネットワークを広げるよう努めてきた。

■　評　価

○　行動計画自体がこうした活動の情報交流の拠点としてある程度機能し、人、施設、団体の新たなネットワークづくりに寄与できた。

○　姉妹湿地のあるオーストラリア等、海外との交流を含む事業も継続的に行われており、地域の国際交流にも貢献している。

○　今後は、これまでの交流やネットワークから、行動計画や自然再生の推進力を引き出していくことが期待される。

資料 4-3

第 2 期普及行動計画（案）へ寄せられた意見の概要とその対応（案）

意見照会は以下の期間、方法により行いました。

募集期間：10 月 26 日（月）～11 月 15 日（日）　20 日間

周知方法：(1)郵送：自然再生協議会構成員全員　(2)ホームページ掲載　(3)メールニュースでの案内

寄せられた意見：10 件

	意見の概要	対応
1	文言だけではなく図示等を入れたほうがわかりやすく見栄えもすると思います。	「2－1 目的」にて図示を追加いたしました。
2	来年(2010 年)には名古屋で COP10 生物多様性条約会議が、また 2012 年にはルーマニアで COP11 ラムサール条約締約国会議が開催される予定。今回まとめられた再生普及行動計画では課題として「関心」「気づき」「学び」については定着してきた、と述べられているが、それは地域においてであって、国内的にももちろん国際的にはまだまだ PR は不足している。もう少し普及行動計画を世界に売り出してはどうか？ 差し当たって、2 月の世界湿地の日には、なにか湿地の生物多様性についてのイベントでも考えてはどうか。また、冬でも観察できるように湿原内に生息している樹木に着生す蘚苔類などを観察、採取して標本を作るなどはどうか。	普及行動計画の PR については、地域、国内、国外を対象に具体的な再生普及の PR 計画をこれからも継続的に検討していきたいと思います。 毎年世界湿地の日の時期にあわせて、KIWC がイベントを実施しており、当事務局としてもそれに協力し、湿地の意義や本計画の PR も実施していきたいと思います。 冬のイベントについてはフィールドワークショップのプランとして今後検討いたしたいと思います。
3	小委員会等会議に参加しているが、なかなか発言しにくい雰囲気がある。学術的な（大学教授）討議・やりとりが多く、地域の一般市民の方々が口を挟みにくく、またオブザーバーの方々がたくさん控えており、間違った意見を言えないと感じる。もっと一般市民参加者もフランクに意見を言えるような雰囲気をつくってもらえないか。	再生普及小委員会には、特に幅広い層の参加者がおられるので、ご指摘いただいた点は重要と認識しております。なるべく平易な言葉で話し合いを進める努力を続けると同時に、いただきましたご意見は、釧路湿原自然再生協議会事務局にもお伝え致します。
4	小委員会の横の交流があまりなく、市民枠の参加者同士もお互い関係性がないのでフランクな人間関係が少し希薄に感じる。交流の機会もあった方が良いのではないか。	行動計画の実施を通して、釧路湿原自然再生に関心ある市民、また関係者等との交流を図るよう努めてまいります。また、年に一度くらい協議会とは別に各小委員会のメンバーの方々が一同に会する機会を設けて意見交換会のようなものを計画できないか、協議会に意見をあげたいと思います。

	意見の概要	対応
5	第１期での総括を踏まえた、第２期普及行動計画の作成となっているのか。 上手くいった点、いかなかった点の整理。どうして上手くいかなかったのか、何が足りなかったのか、課題の抽出を。	第１期の評価については別途資料をご参照ください。（意見照会時は計画案のみの提示でした。）第１期評価は各小委員長へのヒアリング、WG での検討の上で作成しました。第 2 期計画（案）は、それらの意見を反映した内容となっております。再生普及小委員会にて検討した後、協議会に報告する予定です。
6	（ワンダグリンダ参加者同士の）つながりを深めるための、共通の活動を起こしてはどうか。 →参加したみんなで何か１つをつくり上げる（協働のよろこび？） →市民参加、マンパワーを活かした広域的、継続的な取組み 　例）釧路川、湿原周辺で見た動植物の情報に関す売る掲示板の立ち上げ、お気に入りの風景、ビューポイント、その写真等の募集（○○から見た夕焼け等）、パックテストを用いた釧路川の最上流から最下流までの水質調査・マップの作成など	行動計画は、具体的な行動をする人や地域の活動を応援するための計画です。広域的、継続的な取組みをされる方には、ワンダグリンダに応募していただき、WG では情報発信、コーディネート等の協力をさせていただきます。
7	（ワンダグリンダ参加者たちの）継続した活動、参加のために必要なこと。 活動内容の発表、発信とその評価（手厳しい評価でなく、プラス発想の評価？）マンネリ化しないよう、時々変化をつける（全体イベント、協働作業、ボランティア） →個々の様々な活動が、何らかの形となるようなコーディネートができれば	ワンダグリンダ参加者みなさまの活動がどのような効果をもたらしているのか、また、更にやりがいを感じていただけるよう「目に見える形」を創り出すにはどのような工夫をしたら良いのか考えつつ、今後も活動発表や参加の機会を設けたり、コーディネートを心がけたり、情報発信等を続けていきたいと思います。
8	（ワンダグリンダへの）参加のしやすさ。 湿原や自然等への関心、何らかの関わりを持っていれば参加できる点は良いと思う。市民等が参加、活動したことが形となって現れると、更にやりがいが出るのでは。	
9	毎年作成される報告書。自分たちの活動が日の目を浴びる良い機会となっているのでは。他の団体の活動を知る機会にも繋がる。	引き続きワンダグリンダ参加者みなさまの活動を効果的に発信していきます。
10	とてもわかりやすくまとめられていた。第１期の「きっかけづくり」「動機づけ」から、第２期では「広げる」「深める」＝「浸透させる」「地域に根付かせる」という計画の方針が伝わった。特に「釧路方式」というのがいい。何より、地域の人による、地域の人のための行動計画。ワンダグリンダの地道な努力、スタッフのネットワークづくりの賜物と思う。	今後もご期待にこたえられるよう、第 2 期計画の趣旨に沿って、地域に貢献できるよう努めてまいります。

資料４－４

第２期 釧路湿原自然再生普及行動計画（案）

目　次

はじめに（協議会会長のことば）

１　背景と経緯

１－１　行動計画の背景
１－２　これまでの経緯

２　釧路湿原自然再生普及行動計画とは

２－１　目的
２－２　行動計画の性格と考え方
２－３　構成
２－４　計画期間と進行管理
２－５　推進体制

３　行動計画の方向性と期待される取組

３－１　釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ
３－２　自然再生に参加する、行動する
３－３　地域と関わり、人をつなぐ

参考資料

再生普及行動計画ワーキンググループ名簿

協議会構成図

１　背景と経緯

１－１　行動計画の背景

○　釧路湿原では、2003 年 11 月に自然再生推進法に基づく「釧路湿原自然再生協議会」（以下、「協議会」という）が設立され、同法に基づく「釧路湿原自然再生全体構想」（2005 年３月策定、以下、「全体構想」という）及び地区毎の自然再生事業実施計画（以下、「実施計画」という）により、ラムサール条約に登録された 1980 年頃の環境を取り戻すべく、具体的な事業が進められています。

○　自然再生は、目標達成に数十年という時間を要すること、流域全体を視野に自然の持つ自己回復力を引き出しながら進めていくこと、モニタリングと評価に基づき事業を見直しながら進めることなど、従来の環境政策や公共事業にはない特徴を持ちます。その推進のためには、地域の理解や参画を広げていくことが不可欠であり、これを支える環境教育や市民参加[1]の仕組みづくりを必要とします。このため、全体構想では目標達成のための主要な施策のひとつとして「持続的な利用と環境教育の促進」を位置づけています。

○　協議会は、自然再生推進法の趣旨と全体構想を受けて、釧路湿原の自然再生にかかる環境教育や市民参加を推進するための５年計画として、「釧路湿原自然再生普及行動計画」（以下、「行動計画」という）を 2005 年６月に作成し、運用してきました。

○　この行動計画が５年目を迎えるにあたり、これまでの実績を踏まえて内容を改定し、流域の社会、経済の持続可能な発展への貢献をも視野においた環境教育や市民参加の一層の普及、拡大に向けて、当面の目標と方策を示し、国内の自然再生を先導する「釧路方式」を特徴づけていくものです。

[1] 本計画では、「市民」とは、「市内に住む人」という意味ではなく、流域全体の住民、活動団体、来訪者等、広く自然再生実施者以外の人々を意味する言葉として使います。

１－２　これまでの経緯

○　1999 年 9 月～2001 年 3 月

「釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会」設置。**「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」**をとりまとめた。[2]

○　2002 年 9 月～2003 年 6 月

「釧路湿原の自然再生に係る市民参加・環境教育等の推進方策調査懇談会」設置。計６回の会合を経て**「市民参加・環境教育の推進に関する 10 の提言」**をとりまとめた。

○　2003 年 11 月

「釧路湿原自然再生協議会」設立、**「再生普及小委員会」**の設置。

○　2004 年 7 月～2005 年 6 月

同小委員会に設置された**「再生普及行動計画ワーキンググループ」**（以下、「行動計画ワーキンググループ」という）の７回の会合、及び同小委員会での検討を経て、上記「10 の提言」の具体化に向けた５年間の第１期計画として**「釧路湿原自然再生普及行動計画」**（以下、「行動計画」という）を作成。

○　2005 年 6 月～現在

毎年度の具体的な取組みを募集し、報告をとりまとめる形で、第１期行動計画の進行管理を開始。2006 年度からは、公募で決まった**「ワンダグリンダ・プロジェクト」**の愛称で実施。

○　2009 年 4 月 24 日　第 15 回行動計画ワーキンググループ（改訂についての意見交換）
～7 月　小委員会メンバーへのアンケート、各小委員長との意見交換実施
～9 月　行動計画ワーキンググループ事務局による素案作成作業
10 月 19 日　第 16 回行動計画ワーキンググループ（改訂行動計画素案の検討）
10 月 26 日～11 月 15 日　改定行動計画案の意見照会
12 月 17 日　第 14 回再生普及小委員会
第 17 回行動計画ワーキンググループ（改訂行動計画案の検討）

※　以下、未定

第 15 回釧路湿原自然再生協議会（改訂行動計画の承認）

---

[2]　この提言は、市民参加、環境教育関連の記載にそれぞれ章を割いて記述しています。

２　釧路湿原自然再生普及行動計画とは

２－１　目的

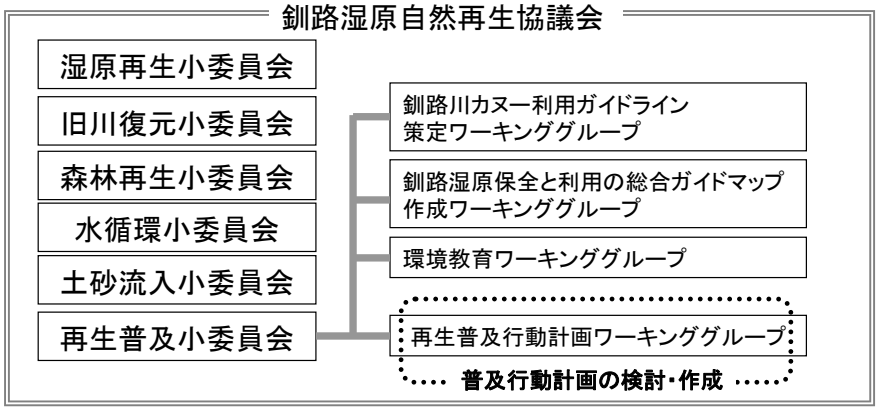
○　この行動計画は、自然再生推進法の趣旨と全体構想をふまえ、釧路湿原の自然再生[3]を、地域、市民の理解、支持、協力、参加のもとに効果的に進め、そのために幅広く環境教育活動を展開していくために作成するものです。

○　自然再生は、自然科学だけではなく、社会、文化的側面をもち、多様な利害関係者が存在します。行動計画は、自然再生の直接の実施や合意形成の場ではないものの、そうした多様な立場の人々が当事者としていろいろな形で関わり、自然再生に貢献する機会を提供することを目指します。

○　第１期の行動計画（2005～2009 年度）では、釧路湿原地域での人々と湿原の接点を増やし、「関心」、「学び」を広げ、取り組む人や主体の幅も広げることできました。今回の第２期行動計画（2010～2014 年度）では、そうした「関心」、「学び」の対象や機会を「さらに広げる」とともに、「参加」、「行動」につなげ、「深める」ことを目標とします。

○　長期的には、自然再生の推進のみならず、湿原の自然とともに暮らしていくために、湿原と人々のつながりをつくり、流域の社会、経済の発展に貢献していくことを目指します。

○　これらにより、地域の参加を特色とする「釧路方式」を特徴づけていきます。



[3] 全体構想では、「自然再生」をより広く、自然の保全・回復・復元・修復・維持管理・創出などの概念を含むものとして定義しています。以下、本行動計画においても、保全（今残されている良好な自然を良好な状態で維持すること）等を含めた意味で用います。

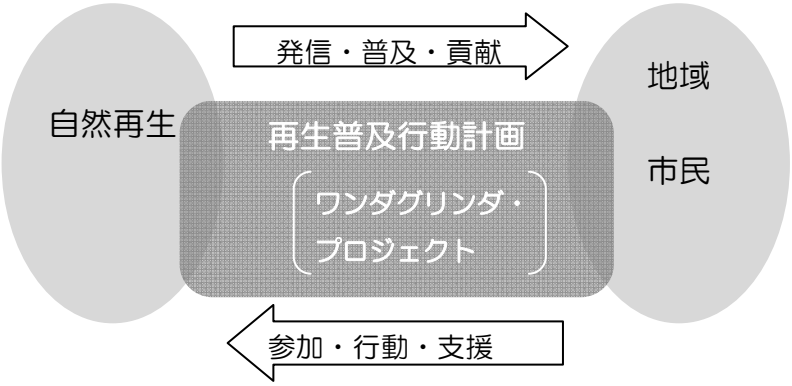
２－２　行動計画の性格と考え方

○　この行動計画は、具体的な行動をする人や地域の活動を応援するための計画です。

○　この行動計画は、自然再生推進法に基づく実施計画ではありませんが、全体構想に基づく各実施計画に環境教育や市民参加を進めていくための横断的な指針として、実施計画に準じる重要な役割を担います。

○　この行動計画は、自然再生実施者や事務局だけではなく協議会としての計画であり、釧路湿原の自然再生への地域、市民の関心、協力、参画を拡大していくために求められる多岐にわたる課題に対し、「できる者」が「できること」から取り組むことを原則に、目指すべき方向をまとめたものです。

○　この行動計画は、「ワンダグリンダ・プロジェクト」[4]実施を通して、協議会内外を問わず、誰でも参加することができるものです。ワンダグリンダ・プロジェクトは、自然再生と地域・市民をつなぎ、ネットワークを広げるためのプロジェクトです。



２－３　構成

○　行動計画は、第１期行動計画に整理した 10 の項目を、２－１に示した重点目標である「さらに広げる」ことと「深める」こと、及びそれらに取り組むうえで共通的に関わること、の３つの柱に再編し、それぞれの項目毎に取組の方向性を記載しています。また、それぞれの項目ごとに、期待される取組の例を記載してあります。

○　具体的な取組については、各年度毎に「ワンダグリンダ・プロジェクト」参加事業として募集します。

4　「ワンダグリンダ」とは、「Wonder」（すばらしい）、「One」（ひとつの）、「Green だ！」を併せた造語です。第１期行動計画の中で参加者から公募、採用し、2006 年から各年度の具体的な取組みの愛称として使われています。

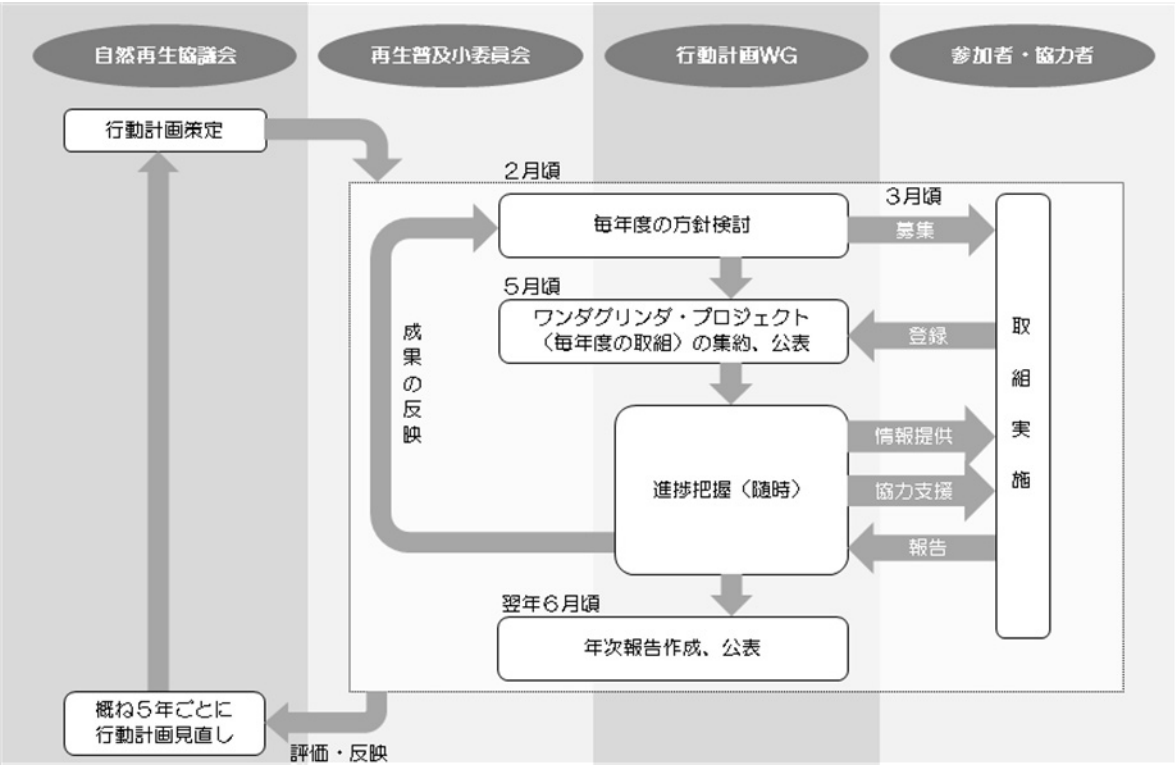
２－４　計画期間と進行管理

○　この行動計画の計画期間は、2010～2014 年度の５年間とし、全体構想の各施策の達成状況の点検にあわせて、概ね５年毎に評価し、見直していきます。

○　行動計画ワーキンググループ事務局（以下、「事務局」という）は、この行動計画の内容に沿って各主体が実施する具体的な取組を「ワンダグリンダ・プロジェクト」として毎年度把握し、再生普及小委員会で承認を受けて公表し、協議会に報告します。

○　ワンダグリンダ・プロジェクトにより行動計画に参加する取組については、事務局から情報提供、広報支援等を行うほか、必要に応じて事業協力や助言を行います。また、それぞれの事業の実施状況を把握し、集約して発信します。

○　毎年度終了後には、事務局が実施状況をとりまとめ、公表します。各年度の実施の経験やそこから得られたアイデア等は、可能な範囲で次年度の方針に反映していきます。



２－５　推進体制

○　この行動計画は、再生普及小委員会に設置された行動計画ワーキンググループが推進主体となって進めます。行動計画ワーキンググループでは、行動計画の作成や改訂作業、進捗状況の把握と進行管理に関する検討、その他行動計画の達成のために必要な具体的な検討を行います。

○　行動計画ワーキンググループの事務局は、環境省釧路自然環境事務所におきます。

○　この行動計画に参加する主体は、ワンダグリンダ・プロジェクトのロゴマークを活動に使用することができます。

３　行動計画の方向性と期待される取組

○　2005 年度からの第１期計画では、人々と湿原との接点を増やし、関わる人の幅も広げることができました。2010 年度からの第２期計画では、湿原に関心を持つ人をさらに増やしていくとともに、「関心」、「知識」から、「参加」、「行動」につなげ、人々と湿原の関わりを深めていくことを目指します。

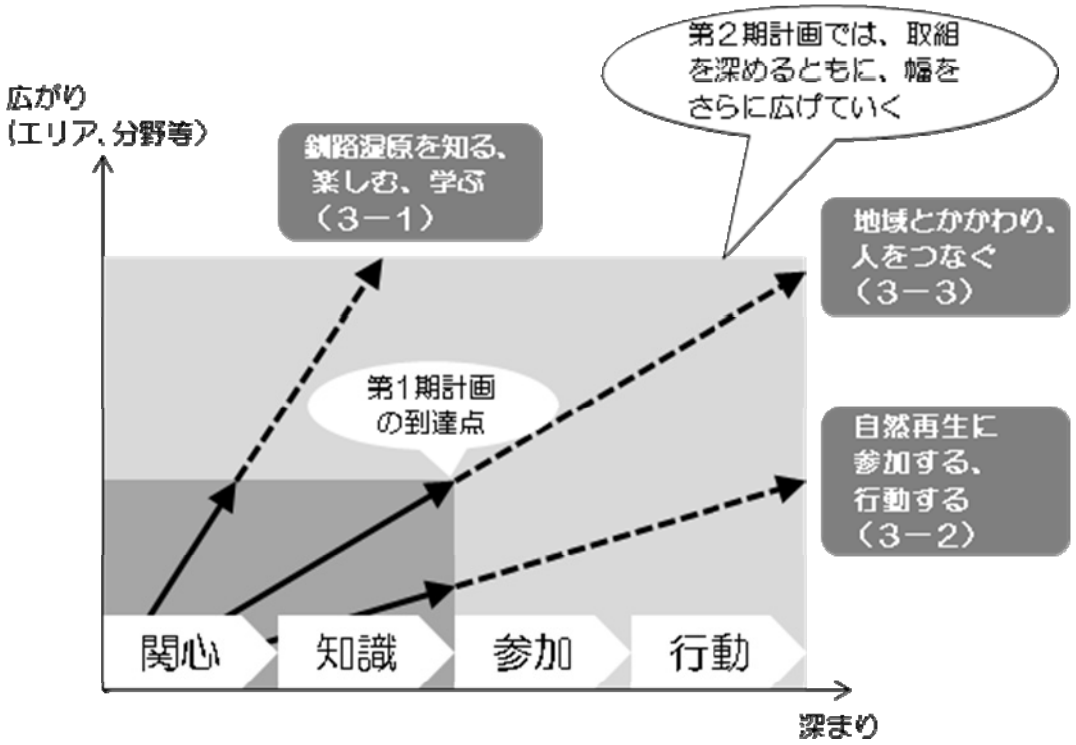
　また、参加者、協力者自身で、さらなるつながり、広がりを生み出していくことを目指します。

○　将来的には、湿原と流域の人々とのつながりをつくり、湿原の自然と一緒に暮らしていくこの地ならではの生活文化をつくっていきます。

○　協議会はこのため、以下の３つを柱に第２期計画を進めて行きます。

（１）釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ
（２）自然再生に参加する、行動する
（３）地域と関わり、人をつなぐ

　この３つの柱の趣旨に賛同する人や団体による自発的な活動、協力によって「ワンダグリンダ・プロジェクト」が構成されます。



３－１　釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ

協議会は、これまでにたくさんの人が関わって進めてきた、湿原を「知る」、「楽しむ」、「学ぶ」活動を行動計画の基盤として継続し、人々が湿原に接する「入口」と「幅」を広げていきます。

取組の方向性

① 人々が湿原に関心をもつための湿原との接点を増やします。
② 湿原のことを知り、体験し、楽しむ機会をつくります。
③ 湿原のことを学び、考える機会をつくります。
④ 湿原と人の関わりの歴史と今を伝えます。
⑤ 湿原で行われている取組について情報発信します。
⑥ 自然再生に関する情報公開を進めます。

ワンダグリンダ・プロジェクトとして期待される取組の例

- 湿原を知り、体験できる、行事やツアーの実施
- 湿原に関するセミナー、展示、その他の企画の実施
- メディア、出版、インターネットなどによる湿原についての発信
- 音楽、アートなどの文化活動をとおして湿原のことを伝える活動
- 店舗、飲食店、宿泊施設、文化施設、公共施設などの場で湿原のことを伝える活動
- 学校や修学旅行で湿原のことを伝える活動
- 湿原関連施設での様々な行事や情報の発信
- 湿原と産業や暮らしの関わりを学び、伝える活動
- 湿原の野生生物と人との関わりについて学び、伝える活動
- 湿原や自然再生の状況を地域によりきめ細かく伝える活動
- 自然再生に関する情報の拡充、迅速な発信

３－２　自然再生に参加する、行動する

協議会は、湿原について、気づきや知識を得た人たちが、今度は一歩進めて、様々な活動に参加し、協力、支援し、行動することで、湿原との関わりを深めていけるよう、行動計画のこれまでの経験や成果を活用して、当面重点的に活動します。

取組の方向性

① あらゆる立場から、自然再生に参加、協力できる機会を増やします。
② 湿原に関心をもち、自然再生にかかわる人を増やします。
③ 自然再生に参加、行動する人を支援します。
④ 自然再生に関する活動の情報を発信します。

ワンダグリンダ・プロジェクトとして期待される取組の例

- 自然再生や湿原に関わる活動への参加、協力の機会についての情報発信
- 自然再生や民間活動における多様なプログラムの作成と市民や地域への参加の呼びかけ
- 子ども・親子で参加、活動する機会をつくる取組
- 参加、行動したい人向けの交流やステップアップの機会をつくる取組
- 市民、事業者、学校、行政の湿原に関わる活動の支援
- 一次産業、商業、観光等、事業者や店舗への参加や協力の呼びかけ、活動の応援
- 自然再生への協力者･協力団体の紹介、発信

３－３　地域と関わり、人をつなぐ

協議会は、自然再生と地域や人とのつながりをつくり、関心、学び、参加、行動、協力、支援のそれぞれを広げ、将来にわたって湿原の自然と一緒に暮らしていける、地域の持続的な発展をめざします。

取組の方向性

① 流域を視野に自然再生と地域の持続的発展の両立を目指す取組を進めます。
② 湿原への来訪者、滞在者向けのサービスを改善し、人々と湿原との関わりを創り出していきます。
③ 人、組織、施設をつなぎ、自然再生を支えるネットワークづくり、雰囲気作りを進めます。

ワンダグリンダ・プロジェクトとして期待される取組の例

・ 地域の魅力創出に貢献する湿原の新しい楽しみ方の提案、実践
・自然再生、地域の産業や文化を活用した、新たなツーリズムの実施
・湿原に関するさまざまな情報とあわせた、観光、宿泊、飲食等に関する情報提供の実施、ツーリストインフォメーション機能の整備
・湿原関連の情報集約を進め、公園利用施設に加えて、新たに観光拠点、商業施設、交通機関等での情報提供の実施、サービスの拡充
・都市や海外との交流プログラム、地域間連携による事業の実施
・流域、圏域の自然系施設間の情報交流、連携事業の実施

資料 5-1

今　後　の　予　定（案）

★ は環境教育 WG 関係

2009 年 12 月 17 日	第 14 回再生普及小委員会、第 17 回再生普及行動計画 WG　開催 「ワンダグリンダ・プロジェクト 2009」中間報告 第 2 期釧路湿原自然再生普及行動計画（案）の検討 2010 年度募集概要（案）等についての検討
（以降、予定）	第 15 回釧路湿原自然再生協議会　開催 第 2 期釧路湿原自然再生普及行動計画（案）の承認
2010 年　　2 月	★第 4 回環境教育 WG　開催
	「ワンダグリンダ・プロジェクト 2009」活動報告の依頼（4 月下旬まで）
2 月 15 日～ 3 月 15 日まで	「ワンダグリンダ・プロジェクト 2010」募集
4 月中旬	第 18 回再生普及行動計画ＷＧ　開催 「ワンダグリンダ・プロジェクト 2009」報告書（案）の検討及び 「ワンダグリンダ・プロジェクト 2010」応募状況について
5 月中旬	第 16 回再生普及小委員会　開催 再生普及行動計画 WG、環境教育 WG の報告及び内容の承認等

資料5－2

「ワンダグリンダ・プロジェクト2010」　募集概要（案）

1　募集期間

2010年2月15日（月）～3月15日（月）までの1ヶ月間

※年に1回、期間を決めて募集することで集中的に関心を高め、その後の応募問い合わせについては、時期を問わず、随時受け入れを行うこととする。

2　広報について

チラシ・ポスターの作成（チラシ8000枚、ポスター150枚）

- 公共施設（コミセン、観光施設等）への掲示依頼（市町村役場に協力を依頼）
- 関係市町村発行の広報誌へ掲載依頼
- 「じゅう箱のスミ」へ掲載依頼
- 各報道機関へお知らせするとともに、広報を依頼（FMくしろ　他）
- ホームページへ掲載（ワーキンググループ通信、協議会、環境省釧路自然環境事務所）
- 北海道環境財団の情報メールに掲載
- メールニュース『ワンダグリンダ☆ニュース』へ掲載
- 学校へ配布（関係市町村教育委員会へ協力を依頼）
- 推進サポーターへの掲示依頼

3　応募方法

WG事務局に電話かメールで応募用紙送付を依頼、もしくはホームページよりダウンロード

→　記入後、WG事務局に送付（メール、ファックス、郵送のいずれか）

→　WG事務局で内容について応募者に確認（電話、ファックス、メール等）

→　〆切後、WG・小委員会にて承認後、応募者に「ワンダグリンダ・プロジェクト2010」として公開されることをお知らせ　　→　2010年5月下旬を目途として公開

4　連絡先

釧路湿原自然再生協議会　再生普及小委員会

再生普及行動計画ワーキンググループ事務局　ワンダグリンダ・プロジェクト担当

〒084-0922　釧路市北斗2-2101　釧路湿原野生生物保護センター内

【e-mail】]fukyu@kushiro-wetland.jp 【TEL】0154-56-4646　【FAX】0154-56-2267

5　その他

(1) 応募フォーマットは、昨年と同様の様式を使用します。(デザインを少々変更します)

(2) 「釧路湿原自然再生」の普及に貢献する活動であれば、地域を問わず受け入れることとします。